



アメリカで生物統計学を学ぶとは

環境生命科学専修3年 韓優美

1. 企画プロセス

なんとなく海外は生物統計学が進んでいるという憧れがあり、実際の現場を見てみたいと思いました。大庭先生にご相談したところアメリカをご推薦いただき、自分も生物統計学が最も発展しているアメリカへの漠然とした憧れがあったため、アメリカに行くことを決めました。

大庭先生経由でジョージワシントン大学の濱崎俊光先生をご紹介いただき、濱崎先生経由でGWUのAngelo Elmi先生、Heather Hoffman先生、Qing Pan先生、NIAIDのLori Dodd先生にご紹介いただき、訪問先が決まりました。

2. スケジュール

3/16 移動日（現地着）

3/17 講義を聴講

3/18 Smithsonian National History Museum を見学

3/19 Biostatistics center を見学、講義を聴講

3/20 講義を聴講

3/21 講義を聴講、面談

3/22 移動日

3/23 移動日

3/24 日本着

3. 研修の詳細

1日目：ジョージ・ワシントン大学 生物統計学講義（Longitudinal Data Analysis）

- ・ 経時データ分析（混合効果モデル）を学ぶ
- ・ 事前学習＋講義＋R演習の実践的な授業

2日目：Smithsonian National Museum of American History 見学

- ・ 法医学の発展に関する展示（嘘発見器・DNA検査・トラウマインフォームドケア）

3日目：Biostatistics Center訪問・臨床試験講義

- ・ Biostatistics Center訪問、濱崎俊光先生やスタッフ・学生と交流
- ・ 臨床試験の計画立案を行う実践的な講義、専門的な発表を聴講

4日目：公衆衛生大学院 量的手法（Quantitative Methods）講義

- ・ 推定量・区間推定など統計の基礎を学ぶ
- ・ Heather Hoffman教授の教育改革（エラーコードを見せる授業）

5日目：ディープラーニング講義・面談

- ・ ディープラーニングの正則化手法を学ぶ
- ・ Qing Pan教授「統計家は医学の専門用語を理解し、研究者と対等に討論すべき」
- ・ 濱崎先生・Lori Dodd先生と面談、COVID-19臨床試験や政策の影響について話を聞く



行かなければわからなかったことが意外とあります！せっかくの制度を利用しない手はありません、絶対後悔しないので勇気を出してチャレンジしましょう